日生シップマネージメント株式会社

HSM通信

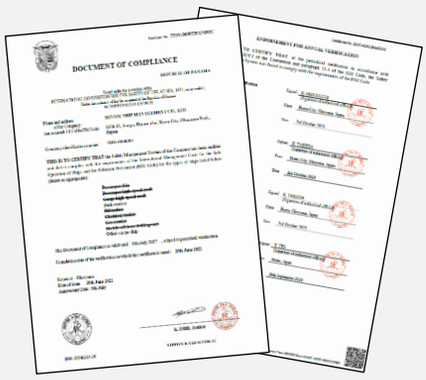
2026.10.16

78号

HSMニュース

DOC審査を受けてみた！

この度、2026年9月にDOC(Document of Compliance)の年次審査を実施致しました。
今回は2022年の更新後4回目の年次審査でした。次回は更新審査となりますが、毎度のことながら時間が経つのは早いなーと感じております。



審査自体は、審査官の方のご協力もあり大変スムーズに行うことができました。
審査の結果としては、Non-ConformityやObservationもなく無事終了しましたが、口頭での指摘やアドバイスを頂きました。

頂いたアドバイスの内容を十分理解し、それらを踏まえより良い安全管理システムの構築とその適切な運用へ向けて更なる改善を図っていきたいと思います。
(毎回同じことを言っております…)

日本海事新聞に記事が掲載されました！

当社グループ会社である㈱HSMが提供するサービスに関する記事が2026年10月14日の日本海事新聞に掲載されました。。

HSM、船舶管理サービスを拡充。消火操練やライトシップ検査支援 提供
※記事全文をご覧頂く場合は会員登録が必要です

主力サービスであるクラウド型船舶管理システム「RitCH(リッチ)」に加えて、消火操練トレーニングも提供しており、さらにライトシップ検査に関する支援を行うサービスの提供も開始することとなりました。
その他にも新たなサービスや今後の計画について紹介されていますのでぜひご覧ください。

詳細は、㈱HSMのウェブサイトにてご確認頂けます。
人材不足や業務効率化、検査の厳格化など、船舶管理を取り巻くさまざまな課題に対応するため、今後も多様なサービスを通じて、お客様の課題解決を支援してまいります！



このコーナーでは散歩の似合わない男「桑村」がその重い腰ならぬ重い体を上げ、日生やその周辺を散歩！魅力的なスポット・お店などを紹介していきます。

今回も番外編として、北海道・函館からお届けします。お仕事で訪れる方もいらっしゃるかと思いますが、観光にもおすすめの街です。まだ訪れたことのない方も、ぜひ一度遊びに来てください！

くわ散歩 第29回：函館で有名な“セクシー中華”！？でも味が自慢の町中華「幡龍」

皆さんこんにちは！くわ散歩では、弊社周辺や近隣、また出張先などのオススメのお店や、まだ知られていない穴場など、様々なスポットを紹介いたします。

今回も北海道・函館からお届けします。函館には美味しいお店がいろいろありますが、今回は私も何度も通っているお気に入りの町中華「幡龍（ばんりゅう）」さんをご紹介します。地元では別名“セクシー中華”とも呼ばれるお店です。
中華でセクシーとは･･･ご安心ください（？）、美味しい町中華のご案内です。



北海道といえば、海鮮にジンギスカン、スープカレーなど、美味しいご当地グルメが盛りだくさん！しかし、普段使いの町中華や定食屋さんにも、美味しいお店がたくさんあるんです。

今回訪れたのは「中華料理 幡龍」さん（住所：北海道函館市宮前町27-11）。JR五稜郭駅から徒歩20分程度と、住宅街も広がる地元密着のエリアにあります。



実は今夏リニューアルしたそうで
店内も綺麗になっていました



今回注文したのは、看板メニューの「鶏南蛮定食」。今回は大サイズを注文しました。大きな鶏肉が4本も盛られ、見た目からしてかなりのボリューム！（中サイズで十分でした…）

こちらの鶏南蛮は「チキン南蛮」ではなく、いわゆる「南蛮漬け」風の一品。甘酸っぱいタレが油っぽさを和らげ、意外とさっぱり食べられるんです。さらに、添えられた玉ねぎなどの野菜もいいアクセントになり、ご飯との相性も抜群！何度食べても旨いです。



後ろのティッシュは、最近見かけなくなりつつある大きめサイズ。
これで大きさが伝わるでしょうか？



この鶏南蛮定食が大好きすぎて、実は私、結局行くたびに鶏南蛮定食を注文。これまで他のメニューを頼んだことがありませんでした。
実は他の料理も美味しいと聞いていたので、今回は「くわ散歩」への掲載を口実に、日を改めて別のメニューに挑戦！

まずは「肉入りスイジャンメン」。赤みがかったスープに野菜がたっぷりで、見た目はいかにも辛そう！ところが食べてみると、意外にも辛さは控えめ。それ以上にスープの旨みがしっかり。そして上にのった大きな揚げ肉が、またうまい！もっと早く頼めばよかった…



こちらが“セクシー中華”の名物お姉さん（と私）！念のため申し上げますが、ご家族でも安心して入れる町中華です！



もう一品は「回鍋肉定食」。豚肉と、キャベツやもやしなどの野菜がたっぷり！甘辛い濃いめの味噌ダレがしっかり絡んで、ご飯が進む進む！こちらもボリューム満点で、味・量ともに大満足でした。

というわけで、美味しい町中華のご紹介でしたが、気になる“セクシー中華”の秘密は…右上の写真でご確認頂ければと思います。

皆さんも函館へお越しの際は、ぜひ立ち寄ってみてください！
それでは、次回の「くわ散歩」でまたお会いしましょう！



くわ散歩の よりみち

津軽海峡を望む「六花亭」でのひと休み

北海道土産でおなじみの「六花亭」。今回ご紹介するのは、函館市の湯川地区近くにある「六花亭 漁火通店」です。

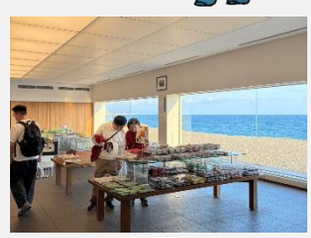
1階では定番のお菓子を販売しており、お土産選びにもぴったり。大きな窓からは津軽海峡を一望でき、まるで大きな絵画のような景色が広がります。

2階には、海を眺めながらくつろげる喫茶室も。カフェや食事メニューもありますが、実は事前に1階でお願いすると、売店のお菓子やケーキもドリンクと一緒に楽しめるんです。

今回はショートケーキとコーヒーをいただきました。実はケーキなどはお手頃価格で美味しく、景色も抜群！お土産購入とあわせて、函館空港へ向かう途中のひと休みにもおすすめです！









ピックアップ！

ここでは、私共が目にして気になった記事やニュース等を紹介させて頂きます。
海運に関する事や海運に関係なくても興味がわく様な内容の物を色々紹介していきたいと思います！

こんちには！
今日はいつもと違い少し余裕をもって記事を書こうとパソコンに向かっていますが、全然進みません。。。
やはり私は、ギリギリまで追い込まれないと出来ないタイプの様です。
ということで、やっぱり今日はもう止めて明日にしようかな、とグダグダとしていたら面白い記事を見つけたので今日はそちらをピックアップしてみたいと思います。

社長が現場に入る会社は、伸びないのか？

私も経営者の端くれとして社長業について早10年…
全然ダメです。思った様に伸びません。当然私の責任であり、私の能力不足以外の何物でもありません。。。
私はもうあまり業務に口を出さない方が良いのでしょうか。。。
と、悩んでいるときに見つけた記事を紹介いたします。

==========

「意思決定をする社長が長く現場から離れたことで、マーケットの感覚が鈍ってしまった」という問題

「社長が現場に入る会社は伸びない」という話を、よく聞きます。「経営者は経営者の仕事に徹するべきだ」と。
たしかに、社長が「俺がやった方が早いから！」と言って、いつまでも現場で手を動かしていたら、その会社の成長は、社長個人の稼働時間に制限されてしまいます。
社長1人が1日に使える時間には限りがあるわけで、事業を大きくしたければ、仕事を人に任せ、誰がやっても一定の成果が出る「仕組み」を作らなければいけません。
ただ、これは「現場に入るか、入らないか」という二者択一の話ではなく、もう少しグラデーションがある話なのかなぁとも思います。
というのも最近、社長が現場から離れ、仕組み化を進めることで順調に成長していた会社が、苦戦している場面を目にすることが増えました。もちろん、原因は会社によって異なります。
その1つとして考えられるのが、「意思決定をする社長が長く現場から離れたことで、マーケットの感覚が鈍ってしまった」という問題。マーケットは変化し続けます。
昨日まで有効だった仕組みが、今日も有効であるとは限りません。
現場で何が起きているのか。お客さんは何に喜び、何に飽き始めているのか。
何にお金を払い、何にお金を払わなくなったのか。そうした変化を肌で感じないまま、過去のデータと成功体験をもとに意思決定を続けてしまうと、組織の仕組みは精緻になっているのに、マーケットとのズレは大きくなっていく。
そんなことが起きている可能性がありそうです。

その場の思いつきで始めた「変なノリ」が、意外とお客さんにウケているという現象

そして、さらにいろいろな会社を見ていると、もう1つ面白い景色が見えてきます。
それは、現場に入っている社長が、その場の思いつきで始めた「変なノリ」が、意外とお客さんにウケているという現象です。社長が思いつきで「アレをやろう！」「コレをやろう！」と言い出す。
現場には現場の段取りがあるし、予算もあるし、予定もある。スタッフからすれば、勘弁してほしい話かもしれません。
社長の思いつきが、必ずしも優れたアイデアであるとは限りません。むしろ、大半はロクでもないものだったりする。
ところが、社長には権限があります。普通なら企画書を作り、会議にかけ、上司の承認を得て、ようやく実行できるようなことが、社長の一声で始まってしまう。
その結果、社長の思いつきは、ほかの社員よりも圧倒的に多く実行されることになります。
そして、その大量の思いつきの中から、ときどき、とんでもないヒットが生まれる。意思決定者の偏愛によるマグレ当たりです。試行回数が多ければ、思いがけないヒットに出会う可能性は高まるわけですね。

次ページへ続く

加えて、社長が現場にいれば、お客さんの反応を直接見ることができます。
数字に表れる前の小さな盛り上がりや、予想外の喜び方、スタッフが見落としていた意外な需要に気づけるかもしれない。そして、本人が好きで好きで仕方がないものを、合理性を度外視して形にしてしまうこともある。
市場調査をして、競合を分析して、成功確率を計算して……というプロセスを経ていたら、生まれなかった企画です。

「社長が現場に入らなくても事業が回る仕組みと、社長が現場に入ることで新しい価値が生まれる余白

社長がすべての仕事に口を出し、すべての企画を自分で決めていたら、組織は育ちません。
社長がいなければ何も決められない会社になってしまうし、社長自身も、日々の業務に追われて新しい事業を考える時間がなくなってしまう。
一方で、現場から完全に離れ、過去の成功を再現することだけに集中すれば、組織は効率的になっても、新しい可能性を見つける力まで弱まってしまうかもしれない。つまり、再現性を高めることと、再現性から逸脱する余地を残すこと。この2つを、どう両立させるか。ここが経営の難しいところだと思います。
日々の業務は、仕組み化して組織に任せる。その一方で、社長はマーケットとの接点を失わないようにする。
現場に顔を出し、お客さんの反応を見て、ときには合理性のない思いつきを口にする。
これはAI時代の経営にもつながる話だと思っています。
過去のデータを分析し、効率的な業務フローを設計し、一定の成果を再現する。
こうした仕事は、AIの進化によって、ますます効率化されていくでしょう。
しかし、まだ市場に存在していない需要や、合理性だけでは説明できない熱狂を、あらかじめ正確に予測することは簡単ではありません。むしろ、過去のデータを重視するほど、過去には存在しなかったものを選択肢から外してしまう危険性もあります。だからこそ、合理的な仕組みを整えながら、そこから逸脱する余地も残しておくことに価値がある。仕組み化の目的は、社長の個性を消すことではありません。
社長がいなくても回る組織を作りながら、社長がいるからこそ生まれる価値も残すことです。
社長が現場に入るべきかどうか。
そんな二択で考えるのではなく、社長が現場に入らなくても事業が回る仕組みと、社長が現場に入ることで新しい価値が生まれる余白。
その両方を持っている会社が、これからの時代には強いのかもしれません。

==========

ということで、いかがでしたでしょうか？
私も読みながら「なるほどな～」と思いました。が、しかし、当社のような超零細企業の分際で、何を偉そうなことを言っているんだ、と。まずは私自身が先頭に立ってガンガン働いてナンボ、トップが率先して動いてナンボだと、改めて思いました。
もちろん、組織としてしっかりとした仕組みをつくり、社長がいなくても会社が回るようにすることは大切です。
私もそんなことを考えたりしていましたが、冷静になって考えてみると、当社はまだまだこれからです。
まずは自分が先頭に立って動きながら、少しずつ仕組みを整え、いずれは自分がいなくても回る部分を増やしていく。そうやって会社を成長させていくことが大切なのだと思いました。
将来、事業が拡大し、会社ももう少し大きくなっていくようなことがあれば、当然、こうしたこともしっかりと考えていかなければならないでしょうし、そういう組織を目指していきたいと思っています。
ただ、今はまだ、そんなことを考えている段階ではありません。
ということで、引き続き、ガンガン口を出して、ガンガン動いていこう！と改めて思いました。
いつか、今回の記事に書かれているようなことを真剣に考え、実践できる会社になれたらいいですね。
それまでは、とりあえずガンガンいこうと思います！
……周りには嫌がられるかもしれませんが。。。

今さら聞けない

海運基礎知識　「DOCについて」

今回は、本誌の冒頭HSMニュースでもお伝えした「DOC」について取り上げてみたいと思います。
船舶管理に携わる方からすと正に「何をいまさら」と言われると思いますが、そうでない方からすると、「船の検査とは何が違うの？」「具体的に何を確認するの？」など疑問に思う方もいると思いますので、今回はDOC審査の基本とその役割について簡単にご紹介したいと思います。

そもそもDOCって何？

DOCとは、“Document of Compliance（適合証書）”の略称です。国際安全管理コード（ISMコード）に基づき、船舶を管理する会社の安全管理体制が要求事項に適合していることを証明するものです。
ISMコードは、船舶の安全運航と海洋環境の保護を目的とした国際的なルールであり、船の設備や機器が基準を満たしているかだけでなく、会社と船舶が一体となって安全を確保する仕組みが機能しているかを重視しています。
そこでよく耳にするのがDOCとSMCがあると思いますが、DOCが「会社の安全管理体制」を対象とするのに対し、SMC（Safety Management Certificate：安全管理証書）は「個々の船舶の安全管理体制」を対象とします。いわば、会社全体の管理体制を確認するのがDOC審査、船ごとの運用状況を確認するのがSMC審査です。両者は連携しており、船舶のSMCが有効であるためには、当該船種を対象とする有効なDOCが必須です。

DOC審査では何を確認するの？

DOC審査では、会社が定めた安全管理システム（SMS：Safety Management System）が、書類上だけでなく、実際の業務において適切に機能しているかを確認します。主に下記の様な内容が確認されます。

- 安全管理方針と責任体制：安全や環境保護に関する方針が定められ、陸上部門と船舶の役割・責任が明確になっているか。
- 緊急時への対応：火災、衝突、油濁事故などの緊急事態を想定した手順が整備され、関係者が適切に対応できる体制になっているか。
- 船員の教育・訓練：必要な教育や訓練が実施され、船員が安全管理手順を理解しているか。
- 船舶の保守管理：船舶や設備の点検・整備が適切に行われ、不具合が発見された際の対応が管理されているか。
- 内部監査と是正措置：社内で安全管理体制を定期的に点検し、問題が見つかった場合に原因を究明して改善につなげているか。

審査では、マニュアルや手順書、記録などの書類を確認するだけでなく、各担当者への聞き取りや業務の実施状況の確認などを通じて、SMSが実効性を持って運用されているかが確認、評価されます。

DOC審査は一度合格すれば終わり？

DOC審査は、安全管理体制を継続的に維持するため、定期的に審査が行われます。
DOC自体の有効期間は5年間ですが、新規取得時や更新時の審査に加え、毎年、年次審査を受ける必要があります。
年次審査では、SMSが引き続き有効に機能しているか、前回の審査以降の変更や是正措置が適切に管理されているかなどが確認されます。
また、更新審査では、有効期限が切れる前に安全管理システム全体をより詳細に確認されます。
審査で不適合が見つかった場合は、内容に応じて原因の究明や是正措置が求められます。重大な不適合は、証書の有効性に影響することもありますので注意が必要です。

次頁へ続く

DOC審査が海運の安全を支える！？

DOC審査の目的は、単に証書を取得・維持することではありません。事故やトラブルを未然に防ぐために、会社の安全管理体制を継続的に見直し、改善していくことにあります。
船舶の安全運航は、船長や船員の努力だけで成り立つものではありません。陸上からの支援、適切な保守管理、教育・訓練、緊急時の対応など、会社全体の取り組みが欠かせません。
DOC審査は、会社と船舶が一体となった安全管理が実践されているかを確認する重要な仕組みです。 審査を「受けること」自体を目的とせず、その結果を日々の業務改善に生かすことが、ISMの目的である安全運航と海洋環境の保護につながります。

以上、非常に簡単ではありましたが、「DOC」について概要を説明させて頂きました。
この様にDOCは、船舶を管理する会社の安全管理体制が、国際的な基準に適合していることを示す重要な証書です。そして、DOC審査は単に証書を維持するためのものではなく、会社全体の安全管理が適切に機能しているかを確認し、継続的な改善につなげるための大切な機会でもあります。
当社としましても、審査が終わってホッとして「喉元過ぎれば熱さを…」とならないように、審査を通じて気付いた点や改善点を実際の管理に生かしていけるように気を引き締めて参りたいと思います。

以 上

Hinase Ship Management Co., Ltd.
日生シップマネージメント株式会社
〒701-3202 岡山県備前市日生町寒河2570番地31
TEL/FAX：0869-72-2177/2178 E-Mail：smd@hsm-jpn.com
URL：http://hsm-jpn.com